



**Data**

監督：西谷弘  
原作：平野啓一郎  
出演：福山雅治/石田ゆり子/伊勢谷友介/桜井ユキ/小南晴夏/風吹ジュン/板谷由夏/古家一行

### ■ショートコメント■

◆映画.com の『マチネの終わりに』の解説には次のとおり書かれている。

東京、パリ、ニューヨークを舞台に音楽家とジャーナリストの愛の物語を描いた芥川賞作家・平野啓一郎の同名ベストセラー小説を福山雅治、石田ゆり子主演で映画化。パリでの公演を終えた世界的なクラシックギタリストの蒔野聡史は、パリの通信社に勤務するジャーナリストの小峰洋子と出会う。2人は出会った瞬間から惹かれ合い、心を通わせていくが、洋子には婚約者である新藤の存在があった。そのことを知りながらも、自身の思いを抑えきれない蒔野は洋子へ愛を告げる。しかし、40代の2人をとりまくさまざまな現実を前に、蒔野と洋子の思いはずれ違っていく……。蒔野役を福山、洋子役を石田がそれぞれ演じ、伊勢谷友介、桜井ユキ、小南晴夏、風吹ジュン、板谷由夏、古谷一行らが脇を固める。監督は「容疑者Xの献身」「昼顔」の西谷弘。

◆世界的な演奏家ともなれば、専属のマネージャーがついているのが当然だが、本作のそれは三谷早苗（桜井ユキ）。そして、蒔野聡史（福山雅治）と小峰洋子（石田ゆり子）の出会いには、最初から妙にこの早苗が絡んでくる。

本作中盤、フランスを舞台に聡史が洋子に対して熱い想いを打ち明けたことによって、洋子が熟慮を経て聡史と出会うために東京にやってくるから、さあ、そこが2人の恋の成就点！そう思っていると、早苗が聡史のスマホに仕掛けた“あるトリック”によって、見事2人はずれ違っていくことに・・・。

◆今ドキ、スマホは命と同じくらい大切だから、タクシーに忘れるなどというへまはあり得ない。しかし、ギター師匠・祖父江誠一（古谷一行）が急に倒れたとの報を受けて、急いでタクシーで駆けつけた聡史は、スマホをタクシーに忘れたばかりに、後は早苗の思

うがままに……。しかし、いくらマネージャーとはいえ修理のために預かった聡史のスマホを、早苗は勝手に覗いていいの？これでは、個人の“通信の秘密”もナニもあったものではないが……。

◆私が最近ハマっている華流TVドラマでは、男たちの権力争いも、後宮の女たちの嫉妬争いも複雑極まりないから、そのドラマティックな展開に手に汗を握ることになる。しかし、本作のストーリーのネタは、前述した早苗のスマホの細工だけだから、単純そのもの。これ（だけ）で2時間のドラマをもたせるのは本来ムリ筋だと私は思うのだが……。美しいギターの音色がその退屈な流れを補ってくれるものの、さて、あなたの満足度は……？

◆それから〇年。それから〇ヶ月。本作はそんな字幕を再三登場させながら、聡史と洋子の“人生”を描いていく。しかし、あの時、あの細工（トリック）によって決定的に別れてしまった2人には、もはや再会はないはず。そう思っていたが、ラストに向けてはまさかのそんな展開も……。そして、何と最後はハッピーエンドに。ええ、そんなのあり……？

2019（令和元）年9月20日記